



学校だより

横浜市立矢上小学校

3月号

発行日 令和4年2月28日

「心の手」

校長 持尾 博之

『手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子』、本校ではこの教育目標を掲げながら、人やまちと豊かにつながる子どもたちの育成を目指しています。しかし、コロナ禍の状況ではソーシャルディスタンス、「手をつなごう」とも言えない中ですが、子どもたちの心の中に大切に育てていきたかったのは「人とのつながり」と「思いを寄せ合うことの大切さ」でした。



先日、港北区個別支援学級学習発表会の動画を朝の集会の時間に全校放送しました。5・6・7組の一人ひとりのがんばりがしっかりと記録されていて、視聴した私たちの心を打ちました。画面を通して、1年間の成長がたくさん伝わってきたのです。放送が終わった時、放送室の前の6年生の教室から、あたたかい拍手の音が聞こえてきました。矢上小学校で目指している子どもたちの姿が拍手の音となって表れました。ソーシャルディスタンスを大切にしているも、心の距離は離れません。コロナ禍に立ち向かうために、笑顔で「心の手」をつなぐ矢上っ子の姿が見られたのは誇らしいことでした。

放課後に校内を巡回していて、6年生の教室前で足が止まりました。残りわずかとなった小学生の間にやり遂げたいことや4月からの中学校生活でがんばりたいことなどの言葉が掲示されています。その中に、“同学年の人みんなと話した”自分を目指している言葉がありました。書いた6年生の心の手は、きっと学年みんなに向かって差し出されているのだらうと思います。また、“卒業式本番を「悲しい」と思わず、「これから」と思って挑む”と書いている言葉にも目がとまりました。成長し、たくましく巣立とうとしていることが感じられたからです。今年の卒業式は3月17日です。心の手と手をつないで「これから」に向かって羽ばたく姿が見られるのを楽しみにしたいと思います。そして、そのあたたかく力強い心の手が、5年生をリーダーとする在校生にしっかりと受け継がれるように、各学年のまとめに取り組んでいきたいと思っています。

今年度最後の学校だよりとなりました。長く続くコロナ禍の中で、本校の教育活動に、保護者の皆様、地域の皆様が変わらぬご支援、ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございます。令和4年度も、子どもたち一人ひとりが安心して学ぶことができ、笑顔いっぱいの矢上っ子が活躍する学校を目指していきたいと思っています。

2月2日には、『「まち」とともに歩む学校づくり懇話会』をオンライン開催しました。PTA、自治会、民生・児童委員、地域コーディネーターといった様々な立場から参加していただき、貴重な意見をうかがう場となりました。昨今のような感染状況下の中にあっても、「地域が学校と一緒にできることをもっと模索していきましょう。」という心強い言葉をいただきました。本当にありがとうございました。その言葉をかみしめながら、学校も保護者や地域の皆様に、もっと多くの子どもの姿を発信し、伝えていかななくてはいけないと感じました。間もなく48年目を終えようとしている本校ですが、成長や改善の歩みを止めることなく進んでいきたいと思っています。

